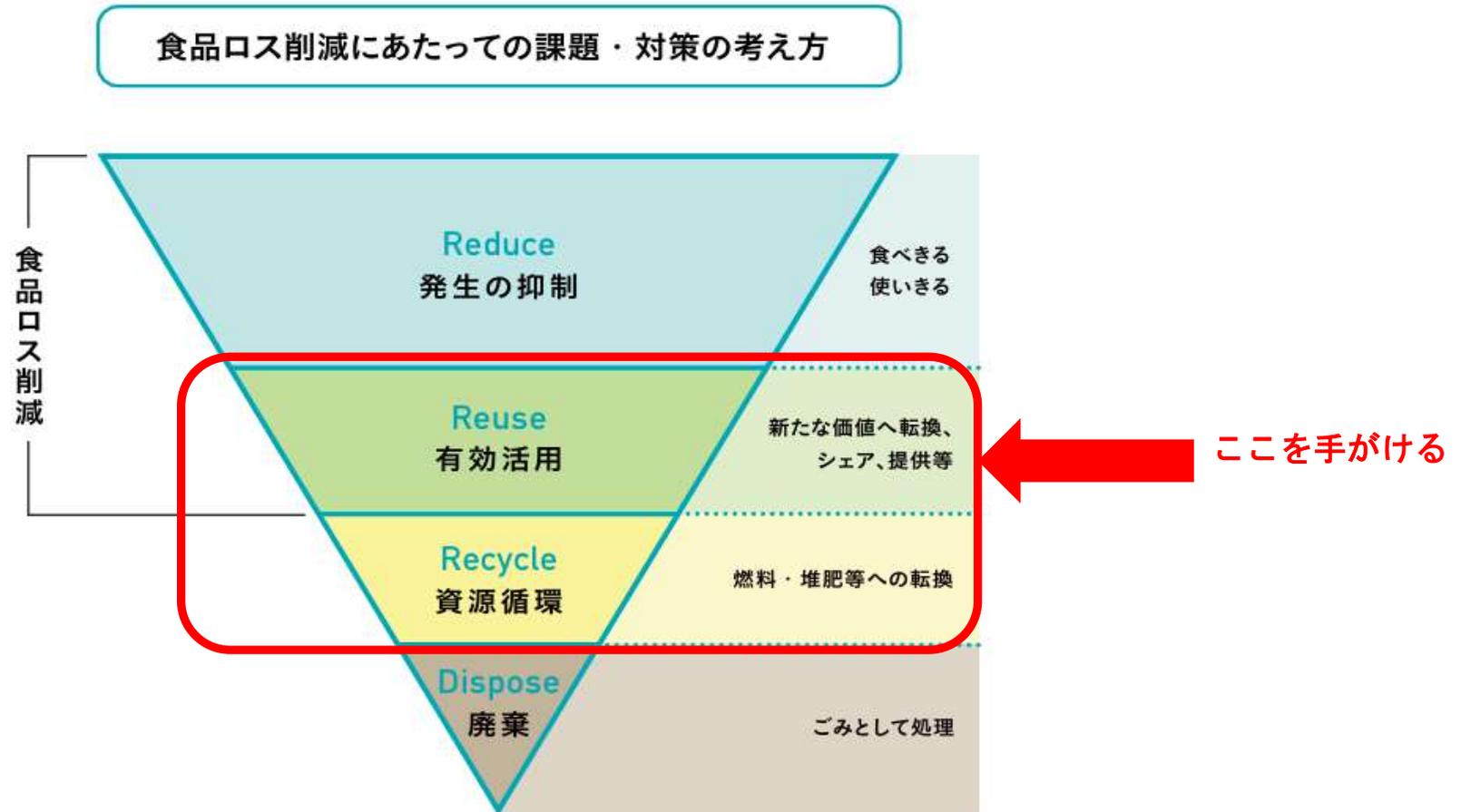


サーキュラーエコノミー 取り組み事例

せんべい生地・端材を肥料に使用する試み

今回の取り組みの位置づけ



折原米菓より 公社に相談

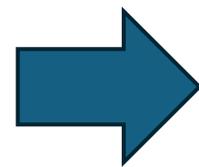
- 折原米菓では米菓子である煎餅の生地を製造している。
- その中で端材、余剰品が出ているが廃棄物になってしまっている。
- （月100kg前後）
- これを役に立つものにならないか。



公社から吉岡製油に相談を受け何ができるか検討

当社の強みの確認

- 廃棄する食用油の再生
 - 油脂の加熱
 - 不純物の除去
 - 不純物からの油脂圧搾



水分の多い生地を
フライにすることは
可能 それを圧搾する
ことで肥料にできるのでは。

それを基に公社は

- 粉体の活用先を模索



武蔵野銀行の紹介の農地に使用可能との承諾を得る



実証実験を行うこととした

これを一例にしてループを目指していく



第一回打合せでのわかったこと

- 数年前に生地を発酵させ出来たものを肥料とすることにチャレンジした。結果、肥料としては良い結果が出たが発酵時において、野鳥被害の対応においてコストがかかるとして往々にして進まなかった。
- 数種類の生地がある
- 胡麻などが練られている物がある
- 水分が多いものは50%くらいありカビや腐敗が起こりやすい
- 提供できる生地は不定期になる(製造計画による)

結果として

- 先ずは一度、加工をして使用可能かどうかを検証し可能であれば今後どのように行っていくかを検討することで一致をした。

ご清聴ありがとうございました